UNIVERSITY OF YAMANASHI HOSPITAL

はなみずき
（病院だより）

第83号
2020年9月
発　行
山梨大学
医学部附属病院

新病棟Ⅱ期棟が開院いたします

副病院長（病院再整備担当）　木内　博之

平素より、再整備事業にご協力を賜り感謝申し上げます。平成30年10月より進めてまいりました新病棟Ⅱ期棟（以下、Ⅱ期棟）が、今年6月に竣工しました。いよいよ引き渡しを迎え、来る9月21日に移転を予定しております。それに向けて、再整備グループでは、Ⅱ期棟への医療機器の搬入や室内装備の設置の最終確認をすすめているところでございます。また、移転の具体的な対応については、荒神教授をリーダーとするワーキンググループにおいて、医療安全に配慮した詳細な手順書を作成し、シミュレーションを行い、スムーズな移転を目指しております。つきましては、移転はもちろんのこと、その後の安全な運用につきましても、なお一層のご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

Ⅱ期棟の特色について簡単にご説明させていただきます。

◇1階：主にスタッフエリアとなっており、建物外とのアクセスが重要な物流センター、洗濯室、病理解剖室が整備されております。また患者さんへの入退院支援業務の拡充を考え、入退院支援センターを配置いたしました。今後の将来的な業務機能の拡充に備え、東側に直通の通用口とそれに続く屋根付きのロータリーを整備しており、雨天時も車から直接乗り入れが可能となっております。

◇2階～7階：病棟階となります。アンケートを踏まえ要望の多かったシャワーを備えた当直室を、Ⅰ期棟との接続廊下に設置しました。また、スタッフの動線と来院者の動線に配慮し、各病棟階入口にスタッフステーションと面談室・デイルームを整備し、来院者が不必要に病室へ行くことのない設計となっております。診療機能としては自動ドアで区分けした場所に陰圧室を整備しております。

◇2階：RI病室を配置しました。

◇3階：精神科病棟は手すりやスタッフステーションなどを患者さん対応に特化した設備設計

を行いました。
◇4階:院内学級やプレイルーム、また幼児に対応した高さのトイレや手洗いを用意し、手すりも大人用に加えて幼児用も設置しました。
◇5階:透析対応可能な個室を配置しました。
◇6階:車椅子を使用したまま利用できる温浴施設を備えております。
◇7階:看護機能を備えた無菌エリア、室内動線に配慮した緩和病室に加え、一般病床とは動線を分けた特別室を整備しました。部屋の大きさは4床室程度で、病院内で唯一のミニキッチンやバスとトイレを分けたうえに浴槽を整備しております。

今後も病棟再整備事業は移転後の旧東病棟解体を経て新病棟Ⅲ期棟の建設工事と進んで参ります。これからも引き続きご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

Ⅱ期棟　入院患者用玄関

当直室（シャワー室完備）

スタッフステーション　・　病棟廊下

精神科病棟スタッフステーション

入退院支援センター

特別室

特別室：浴室

特別室：トイレ

小児科無菌室

幼児用トイレ

大部屋

デイルーム

プレイルーム

総合患者支援部の新設

総合患者支援部長　**榎本　信幸**

皆様こんにちは。7月1日に新設されました「総合患者支援部」につきましてご紹介いたします。

「医療福祉支援センター」（外来棟1階）と「入退院支援センター」（新病棟Ⅱ期棟1階）を核として患者さんの療養の「流れ」をスムーズにするPatient Flow Management（PFM）を担う部門です。PFMとは、外来受診から入院・退院後までスムーズに流れるよう、時間軸に沿ってシームレスに支援を行う取り組みのことで、現在全国および県内の病院で急速にその導入が進んでおります。また、管理棟3階には2つのセンターとともに医療連携を担当するスタッフを配置し、患者さんのスムーズな地域医療ネットワークへのアクセスをサポートする予定です。

実際には、まず、「入院支援」として外来受診から入院までの間に「入退院支援センター」で入院前のさまざまな説明や準備（書類、お手続き、お薬のチェックや入院前の検査など）を行い、入院後の療養の予定を患者さんにもイメージしていただけるようにいたします。これにより入院されたらすぐに治療が開始可能となり入院期間短縮により患者さんの負担が大きく軽減されます。このためには入院診療の流れを一覧表にした「パス」が非常に有効であり医療プロセスの標準化と病棟スタッフの業務効率化を通じてより一層に質の高い安全・安心な診療を患者さんにお届けできるようになります。

入院治療が一段落したところで安心してご自宅や地域での療養を継続していただくための「退院支援」も強化いたします。退院後の療養環境の整備などを担当する専門的チームが入院前から退院後の準備を開始いたします。さらに退院後や外来での円滑な療養のためには診療を取り巻くさまざまな医療福祉制度を有効に活用していただくことが大切であり患者さんと相談しながらこれを支援するのが「医療福祉支援センター」です。このように総合患者支援部によるPFMの推進は、これからの医療に不可欠な取り組みです。当院が患者さんにこれまで以上に安心・安全・高度な医療をお届けすることに貢献できますようスタッフ一同心を合わせて努力してまいりたいと存じますのでどうかご支援よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

副病院長（総務担当）、医学域事務部長　**野中　昭彦**

令和2年4月1日付で、副病院長（総務担当）、医学域事務部長を拝命いたしました野中昭彦です。

2年ぶりの医学部キャンパスは、すでに新型コロナウイルス感染症と日夜戦う怒涛のなかにあり、改めて山梨大学医学部附属病院の背負う使命に身の引き締まる思いがいたしました。

世界中を恐怖に陥れ、緊急事態宣言の発令された日本も患者数は増え続け、医療現場の危機的状況が叫ばれておりました。本学も島田学長をはじめ中尾医学部長・武田病院長のリーダーシップの下、一丸となってこの窮地に立ち向かっております。国難とも言えるこの危機に、感染症指定医療機関ではない当院がいち早く県外からの罹患者受入れを表明・公表しました。症例について間髪を容れずに行った記者会見の模様が全国ニュースで放映されるなど注目も集まりました。崇高な意識をもって懸命な治療に向かってくださった医療チームの皆様に、心より敬意を表します。練習を再開したヴァンフォーレ甲府のメンバーが病棟に向かって整列し、敬意と激励の拍手を送ってくださった場面、コロナ基金に寄せられた温かいメッセージの一つひとつ、さまざまな応援物資を届けてくださった多くの方々の思いに触れるたびに胸が熱くなりました。私ども事務組織も、この困難を乗り越えるべく、これからも山梨大学医学部チームの一員としてそれぞれの持ち場で最大限の役割を果たしてまいります。

コロナ禍の困難な道のり過程のなか、本院では新病棟Ⅱ期棟が、この10月に開院の運びとなります。今後も、中央診療棟・特殊診療棟の改修、新病棟Ⅲ期棟の建設、外来棟改修・増築等再整備事業は目白押しとなっております。県内唯一の特定機能病院として、地域の中核的医療及び高度医療を担い、益々の発展を遂げられますよう、引き続きどうぞ皆様のご尽力・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

就任あいさつ

泌尿器科長　三井　貴彦

令和2年4月1日付で泌尿器科長を拝命いたしました三井貴彦と申します。

私の出身は北杜市で、平成5年に北海道大学を卒業した後は、在日アメリカ海軍病院での1年間の研修を経て、北海道大学泌尿器科学教室に入局しました。

その後北海道大学病院を中心に、下部尿路機能、小児泌尿器科、女性泌尿器科、内視鏡外科を主な専門分野として研鑽を積んでまいりましたが、5年前より山梨大学医学部附属病院で診療を行っています。生まれ故郷で働くことができることを幸せに感じています。

泌尿器科では、生命に関わる泌尿器悪性腫瘍に対して、最新のロボット支援手術や腹腔鏡手術を中心とした外科的治療をはじめ、化学療法や放射線療法を含めた集学的治療を行っています。

今後も最先端の治療を導入できるように努めていく一方で、次世代の泌尿器外科医の育成にも力を入れたいと考えています。また、排泄に関わる領域を担当していますので、患者さんの生活の質を少しでも向上できるように最新の治療を取り入れながら診療を行っています。さらに、山梨県内で唯一行っている泌尿器先天性疾患に対する外科的治療や慢性腎不全に対する腎移植についても、積極的に行っていきたいと考えています。

このように、泌尿器科は子供から高齢者まで幅広く診療を行う科ですので、地域の皆様に世界の最先端の医療をお届けできるような診療体制を構築していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

遺伝子疾患診療センター長　石黒　浩毅

令和2年4月1日付で遺伝子疾患診療センター長を拝命いたしました石黒浩毅です。

前職である筑波大学遺伝医学講座の臨床医を始めてから15年のあいだ、遺伝子診療は、疾患ごとに集積された遺伝情報を用い、診断技術が大幅に向上しました。それに伴って、新しい考え方が次々に生まれ、ゲノム検査の2次的所見の告知、多因子疾患の遺伝情報の提供における医療倫理、先天性遺伝子・染色体疾患をもつ児童に対する教育といったカテゴリーで発展してきました。

当センターには現在、小児科、産科、乳腺外科、耳鼻科、そして精神科と基本診療科が多岐に渡る診療医が所属しており、さまざまな相談に応じられるようになっています。

精神科専門医である私がセンター長を拝命するにあたり、今後のセンターでは「クライアントに対し小児期から成人期への診療科のトランジションなど縦断的支援」や「ゲノム医療連携病院としてがんゲノムパネルの2次的所見告知」、そして「稀少疾患クライアントへのオンライン診療の導入」にも着目した診療活動を行いたいと考えています。

また、これまでどおり、地域保健所には遺伝子疾患の教育活動支援を、各診療科の専門医の皆様には臨床遺伝専門医取得のお手伝いをさせていただきます。

今後も各診療科の先生方には益々のご高配を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

光学医療診療部長　山口　達也

令和2年4月1日付で光学医療診療部長を拝命いたしました消化器内科（第一内科）の山口です。

光学医療診療部の前身である内視鏡室は昭和58年の旧山梨医科大学医学部附属病院の開院に合わせて診療を開始しました。当時は中央検査部門の一つとしての位置づけでしたが、光学医療診療部設置の全国的な流れを受けて、当院でも平成14年に光学医療診療部と名称を変更し中央診療部門の一つとして独立した組織となりました。

内視鏡技術の進歩は目覚ましく、私が第一内科に入局した平成8年には１～2cmほどの胃癌を苦労して内視鏡で切除していましたが、現在ではそれよりずっと大きな病変でも安全に切除することができるようになっています。またアナログ画像からハイビジョン画質、さらに最大520倍の光学拡大機能や特殊光による観察が可能な内視鏡の登場により診断能も格段に向上しています。他にも20年前には考えられなかった治療を内視鏡で行うことが可能となりました。

しかし、これらの機能を現在の限られたスペースへ増設してきた結果、すべてにおいて狭隘化が進んでいます。これらを解決し将来の高度な医療の基準を満たすべく、来年は改修した中央診療棟に移転する予定です。

今年は新型コロナウイルスの流行に伴い普段以上の感染症対策を行っています。もともと内視鏡医療には感染を含めた様々な危険が潜んでいますので、今後もリスクを軽減し、より安全・安心な医療を提供できるように努めてまいります。よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

放射線部診療放射線技師長　相川 良人

令和2年4月1日付で前任の佐野診療放射線技師長の後を引き継ぎ、五代目診療放射線技師長を拝命いたしました。就任前日の3月31日、前任技師長の送別セレモニーが行われた5時間後に、緊急搬送された患者さんのPCR検査結果が陽性であったため、COVID-19の緊急感染対応についての院内緊急会議に召集され濃厚接触スタッフへの対応、濃厚接触者の洗い出し、翌日の人員の配置など、4月1日0時の前よりフライング気味に診療放射線技師長の任務がスタートしました。

就任後4か月が過ぎようとしておりますが、中央診療棟再整備、新病棟Ⅱ期工事と目まぐるしい日々を過ごしております。

放射線部はご存じの通り院内のX線・MRIによる画像診断、放射線治療、IVR、DICOM画像の取り込みと出力という業務を行っており、診療に欠かすことのできない機能を担っております。

スタッフ一同、現在の診療において、放射線部の果たす役割を再認識し、チーム医療における専門職としての診療支援の資質向上を図り、各診療科、診療部門、看護部、事務管理部門、他院内部門と連携を密にとり「病院全体がひとつのチーム」として臨んでいく所存です。

COVID-19の対応においては、まさに「病院全体がひとつのチーム」を実感いたしました。感染対策チームをはじめ、関係部署の皆様とこの難局に挑んでいる中、数々の問題が発生しその問題に対してご支援、ご指導をいただきました。

患者さんを含め院内の皆様方に信頼され安全安心の医療を提供する放射線部として進んで行きたいと思っております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

リハビリテーション部技師長　**八木野　孝義**

令和2年4月1日付で小尾技師長の後任としてリハビリテーション部技師長を拝命いたしました、八木野孝義です。

平成11年に旧山梨医科大学医学部附属病院理学療法室へ入職し今年で21年目になります。今まで私が学んだこと、経験したことを最大限に活かしリハビリテーション部のために役立てていく所存です。

現在、リハビリテーション部は多くの診療科からリハビリテーション依頼を受け対応させていただいており、また褥瘡対策チームや排尿ケアチーム、糖尿病教室での運動指導等、さまざまな場面にも関わっております。

今後も各診療科や病棟からの需要に応えるべく「更なるチーム医療への貢献」と「次世代のリハビリスタッフ教育の充実」を掲げて体制を整えていきます。各診療科や病棟カンファへの参加を促進し情報共有の強化を図ります。

また、今年度は新人4名が入職しました。大学病院の特色である多様な疾患の急性期リハビリテーションについての理論、技術が習得できる教育プログラムや臨床研究についてもスタッフの研究マインドをバックアップできる体制を構築できればと考えています。

今後、病院機能評価の受審やリハビリテーション部の移転が控えております。リハビリテーション部長　波呂浩孝教授、各診療科の先生方、病棟看護師の方々のご指導のもと質の高いリハビリテーションを提供できるよう努力してまいる所存です。何とぞよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

新生児治療回復室看護師長　**田邉　玲子**

令和2年4月1日付で新生児治療回復室(GCU)看護師長を拝命いたしました、田邉玲子です。

私は平成11年4月に旧山梨医科大学医学部附属病院に就職しました。小児科病棟、外来を経験させていただき、GCUでは7年目になります。

GCUは平成22年に新生児集中治療室(NICU)とともに開設されました。NICUで治療を受け急性期を脱した新生児や、産科病棟で治療が必要となった新生児を受け入れています。また当院では、重症な心臓病の新生児が入院することも多く、モニターや輸液を管理しながら看護をしています。このような中でGCUが大切にしている看護は、新生児が安全に治療が受けられ、家族が安心して退院を迎えることができるということです。さらに退院後も不安なく育児が行えるようにするためにNICU、産科病棟、小児科病棟、医療福祉支援センターなどと連携をはかっています。このようにチーム医療の一員として継続的な看護が提供できるよう、スタッフ一丸となって取り組んでいます。

新生児医療においては、新生児と家族中心の看護(family-centered-care)が重要で、家族と医師・看護師とが強い信頼関係を築き、治療や看護に対する理解と意思決定の支援、家族関係の構築への援助を行っています。意思決定への援助は、来年受審予定の病院機能評価にも含まれる項目となりますので、現状把握と課題解決に努めてまいりたいと考えております。

管理者として経験不足ではありますが、向上心をもって取り組んでまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

手術部看護師長　**櫻本　かおり**

令和2年4月1日付で手術部看護師長を拝命いたしました。新採用者を含め47名ものスタッフがおり、他部門との連携が重要であるセクションの看護師長という重責を担うことになり、身の引き締まる思いです。役割が果たせるよう精一杯取り組んでまいります。

手術部は、ロボット支援手術システムやハイブリッド手術室・術中MRI装置を備え、高度な医療を提供しながら、年間6,500件以上の手術を行っております。また、いつどのような緊急手術にも速やかに対応できる体制も整えています。

手術部では周術期看護を実践する中で、患者さんの背景を捉え、訴えに耳を傾けて思いに寄り添い、安心して手術に臨めるよう努めています。また、手術のリスクを踏まえ個別性のある質の高い看護が提供できるよう、スタッフのスキルアップにも取り組んでいます。患者さんに良い看護を提供するために、看護師自身が笑顔で元気に仕事ができる環境を作り、一人ひとりが満足できるセクション作りを目指していきたいと思います。

手術部での経験しかなく力不足な部分もありますが、スタッフとともに成長していきたいと思います。今後ともご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

「看護功労者」「県民の看護師さん」の受賞

当院の小澤和子看護師長が「看護功労者」を、内田純子副看護師長が「県民の看護師さん」を受賞しました。おめでとうございます。

毎年、5月に看護大会記念式典(表彰式)が行われていますが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期となりました。

<受賞者コメント>

小澤　和子　看護師長

この度、看護功労者を受賞いたしました。患者さんや職員の皆様、出会った全ての方々に育てていただき今日に至ることができました。ご指導いただいた皆様に感謝申し上げます。

まだまだ未熟ではありますが、“あるべき姿”を描き、情報を分析し固定観念にとらわれず概念化しながら信念を持って物事を進めることの大切さを改めて感じているところですので、与えられた役割の中で、看護管理力「コンピテンシー」が定着できるよう粛々とその役割を果たしていければと思っております。

コロナ禍の中、挨拶の機会をいただけたことに感謝いたします。ありがとうございました。

内田　純子　副看護師長

受賞にあたり、これまで多くの先輩方や同僚に支えられ、活動してこられたことを実感しており、感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、がん化学療法看護認定看護師として7年目を迎えました。認定看護師としての道を選択したのは、がん化学療法を受ける患者さんの苦難を目のあたりにして、看護師として何とか支援したいという思いが原点でした。近年、がん化学療法の進展に伴い、治療の選択肢が拡大したり、組み合わせによる複雑な治療が行われるようになり、認定看護師の役割も一層重要となってきています。今後も患者さんが安全に安心して治療が受けられるよう努めてまいります。

PCR ドライブスルーセンター開設にあたって

救急部長　森口　武史

新型コロナウイルスの流行にあたり当院では全職員一丸となってこの災厄に立ち向かい、地域医療に貢献するため専門家としてさまざまな対策を実施しております。

この度、その一環としてドライブスルー形式でPCR 検査を実施するセンターを開設いたしました。病気の正確な診断は、診療への最初の重要なステップです。しかし「必要なときに検査を受けられないのでは?」あるいは「検査に行くことによってかえって感染してしまうのでは?」といったご心配があることと思います。

これを解消するにはドライブスルー形式での検査が最適です。国内のドライブスルー形式で実施されているものは検査のみですが、急変などが報告されている本疾患に対して大学病院が実施する際にはさらに高い安全性を担保する必要があると判断し、当センターでは検査のみではなく、簡便な方法で重症度を判定する診断プロセスを含むシステムを構築して運用しております。安全性と検査実施件数は相反すると考えられていますが、IT を駆使し、災害医療、救急医療の考え方を導入することで、2時間余で 30件の検体採取を余力を持って実施できることを確認しております。

まだまだ状況は予断を許しません。今後多数の新型コロナ疑い患者さんが発生した場合でも、当院では検査を迅速かつ安全に実施できる体制を提供しております。

◎カルガモの親子が今年もやってきました。

毎年、春から夏にかけて当院の外来診療棟中庭では、カルガモ親子の姿を見ることができ、患者さんや職員の癒やしとなっています。

今年は、例年より少し早い 3月中旬に 2組のカルガモが飛来し、5月12日に 1組に 9羽、もう 1組に 11羽の合計20羽の雛が誕生しました。その後も何組かやって来て、6月1日には、新たな 2組に 10羽ずつ、合計20羽の雛が誕生し、続いて 7月17日にも 5組目に 10羽が誕生しました。7月末には、最初に生まれた雛は、親ガモくらいの大きさに育ち、中庭の小さな池で飛ぶ練習を始めました。他の雛たちもすくすく育ちお盆過ぎには、巣立っていきました。

◎スターバックスコーヒー（山梨大学医学部附属病院店）の紹介

営業時間:平日(月～金) 7:00 ～ 20:00　祝祭日7:00 ～ 18:30　　TEL:055-278-5877

新型コロナウイルス感染症対策として、客席の間隔を確保のため、減席をしたうえでの営業となります。

アメリカ　シアトル生れのコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなドリンクをお楽しみいただけます。

最近のおすすめは「コーヒー　トラベラー」淹れたてのドリップコーヒー約12杯分（ショートサイズ換算）を持ち帰り専用の新タイプ容器（返却不要）に入れてご用意します。会議やミーティング、アウトドアまで、いろいろなシーンでスターバックスのコーヒーをお楽しみいただけます。事前にご連絡いただけるとお好きなコーヒー豆をお選びいただくこともできます。

ストアマネージャー笹本玲奈さんの声

2007年のオープン以来、病院の関係者様をはじめ、多くのお客様にいつもご利用いただき大変嬉しく思います。お店に入る前よりもお帰りになる時に少しでも心が豊かになり気持ちが明るくなれるよう、一人ひとりに合わせたサービスを心掛け、毎日笑顔でお客様をお迎えいたします。

RICE INK　VEGETABLE OIL INK　VOC FREE
この印刷物は環境にやさしいVOC（揮発性有機化合物）成分フリーの植物油型インキを使用して印刷しました。